平成27年3月策定　新東名島田金谷IC周辺まちづくり構想より抜粋

賑わい交流拠点整備事業について

資料10

新東名島田金谷ＩＣ周辺土地利用方針

＜短　　期＞　堤間地区や牛尾山周辺地区において、産業活性化機能や賑わい・交流拠点機能の整備・誘致を推進し、交流人口の拡大や、地域で働くことができる雇用の場および新たな産業の創出を目指す。

＜中～長期＞　良好な住環境の保全・創出や生活利便施設等の誘致、更なる関連産業機能の集積を図り、雇用の場の確保による地域の定住人口の増加と新たな産業の創出・集積を目指す。

産業活性化ゾーン

その他の関連産業等

○企業の誘致を起爆剤とした、人が住み続けられるための雇用の場の創出や、地域資源を活かした新しい産業の創出・集積

○沿岸部企業の移転の受け皿等、災害時も継続可能な防災性の高い事業用地の創出

※一団の土地について用途地域を指定し都市的土地利用への転換を図る

＜中期＞

６次産業化関連産業（堤間地区）

○大井川の水を活かし、市内及び広域の一次産品の生産者や食品加工業者等と連携する、農業の高度化に資する６次産業化施設や企業の研究・研修施設等の整備・誘致

○大型バスを受け入れ可能な駐車場があり、地元の農産物や特産品を紹介・発信する観光拠点施設の整備・誘致（災害時には、広域と連携して機能する防災拠点として利用）【賑わい・交流拠点ゾーンと連携】

※一団の土地について用途地域を指定し都市的土地利用への転換を図る　＜短期＞

賑わい・交流拠点ゾーン（牛尾山周辺地区）

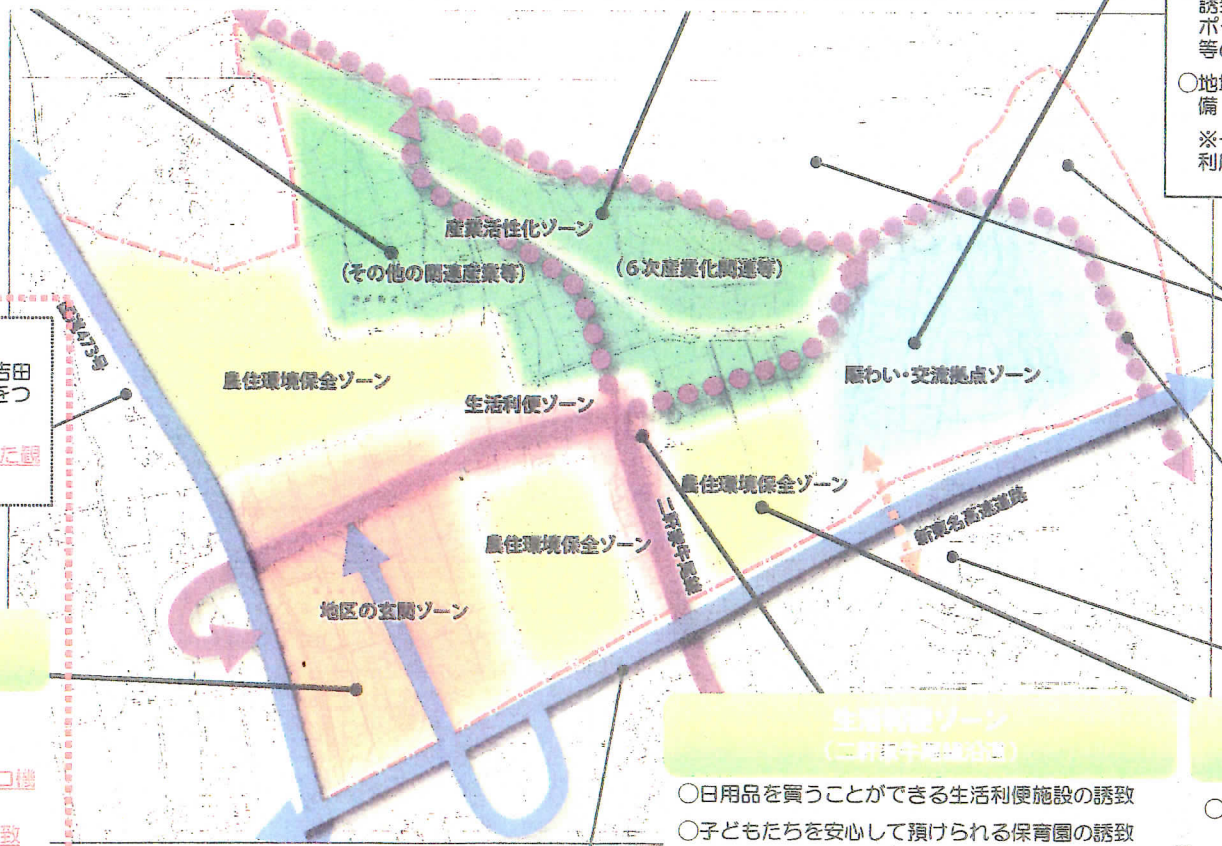
○観光の回遊性の向上に資する、体験型見学施設等の誘致や公園・広場の整備・誘致【産業活性化ゾーンと連携】（観光農園や茶摘み体験、製茶工場を見学できる施設等）

○人が集い遊べるレクリエーション施設（斜面を活かしたすべり台等）や集客施設の誘致（アウトレットモール等）

○災害時に広域と連携して機能する防災拠点の整備・誘致【産業活性化ゾーンと連携】（避難場所・ヘリポート等の整備、物資や食料の供給拠点・備蓄倉庫等の防災減災機能にも資する工業系施設等の誘致）

○地域の歴史資源を活かした教育・文化的な場の整備・誘致

※一団の土地について用途地域を指定し都市的土地利用への転換を図る　＜短期＞



まちづくり構想における『賑わい・交流拠点』の位置づけ

【国道473号沿道・広域交通網】

○川根～富士山静岡空港～御前崎港、東名吉田ＩＣ・相良牧之原ＩＣと新東名島田金谷ＩＣをつなぐ道路の整備の促進

○観光用ＳＬ新駅の設置など、ＳＬを活かした観光スポットの創出の働きかけ

【大井川沿いの防災的利用】

○堤防機能の強化の促進

○河川敷の一体的な活用（ヘリポートとしての防災利用等）

○牛尾山周辺の防災拠点化

【道路・基盤の整備】

○大井川右岸沿いを通り抜ける道路の整備促進（連続した自動車・自転車走行環境の整備）

○国道473号、新東名島田金谷ＩＣ、大井川右岸道路等と連動した地区内の道路の整備

○牛尾山へのアクセス道路の整備

○牛尾山の高速道路の南側との一体的活用

地区の玄関ゾーン（インターチェンジ周辺）

○広域と連携する防災の拠点の整備・誘致

○配送センター等の物流施設の誘致

○地場産品や特産品等を紹介・販売する窓口機能の整備・誘致

○観光客向けの飲食・休憩施設の整備・誘致

＜中～長期＞

【新東名高速道路の高架下】

○新東名の高架下の活用・促進（レンタサイクル、駐車場等）

生活利便ゾーン（二軒町牛尾地区）

○日用品を買うことができる生活利便施設の誘致

○子どもたちを安心して預けられる保育園の誘致

○身近でかかることができ、広域的な医療施設との連携の核となる診療所等の誘致

○高齢者の居場所づくり　＜中～長期＞

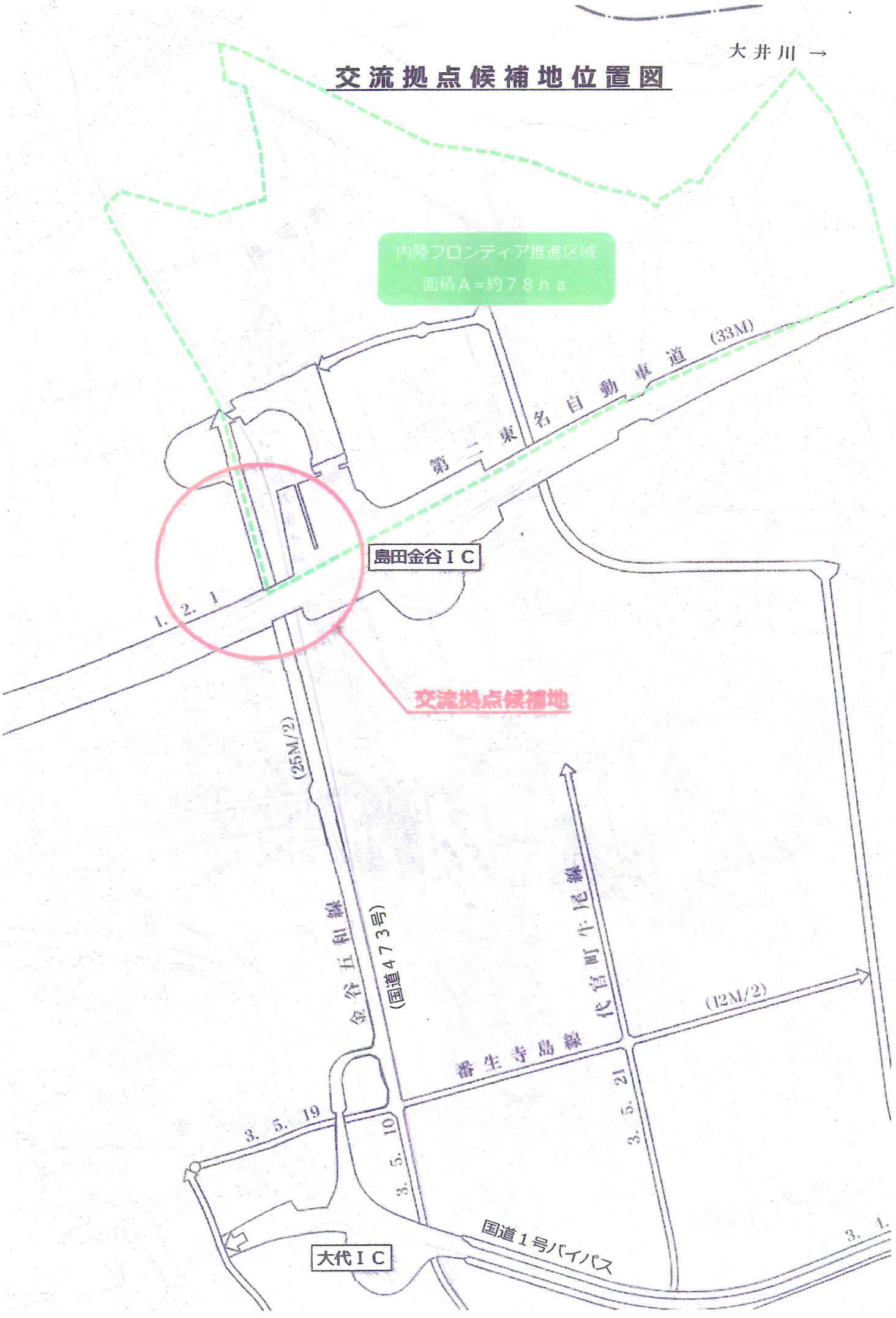
農住環境保全ゾーン

○家族で暮らすことができる住宅と農地が調和した自然豊かな住環境の保全・創出

○緑豊かな環境に配慮した良好な住宅や共同住宅の立地の誘導

○農地などの緑の保全　＜短～長期＞

交流拠点候補地位置図


大井川 →
内陸フロンティア推進区域
面積Ａ＝約７８ｈａ
第二東名自動車道 (33M)
島田金谷ＩＣ
1. 2. 1
交流拠点候補地
(25M/2)
金谷五和線
(国道４７３号)
代官町牛尾線
(12M/2)
番生寺島線
3. 5. 19
3. 5. 10
3. 5. 21
国道１号バイパス
大代ＩＣ
3. 1.

平成28年2月26日(金) 静岡新聞

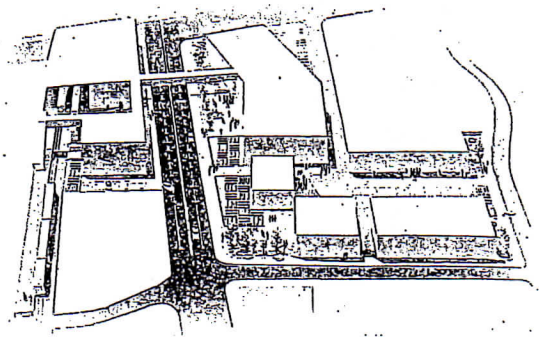
島田の新東名ＩＣ周辺「にぎわい拠点」

18年5月着工目指す

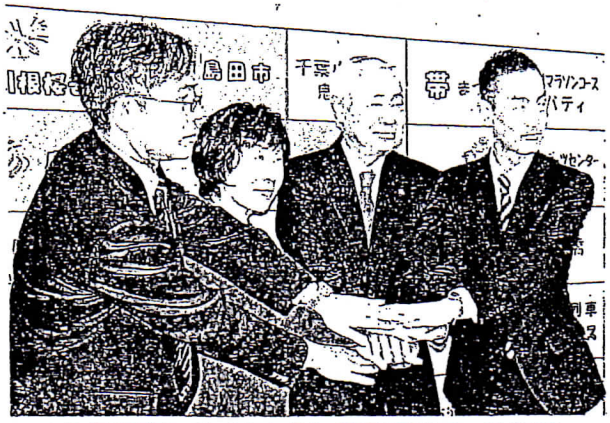
市など4者 構想発表

島田市とＪＡ大井川、大井川鉄道（大鉄）、中日本高速道路の4者は25日、同市役所で記者会見を開き、新東名高速道島田金谷インターチェンジ（ＩＣ）周辺に4者連携で取り組む「にぎわい交流拠点」のプロジェクトを正式発表した。大井川筋の玄関口として農産物販売所や飲食店を集約した施設などを整備する構想。エリア内では大鉄が新駅建設を検討している。２０１８年５月の着工を目指す。

構想によると、交流拠点の敷地面積は約２・２㌶。ＪＡ大井川が地域の特産品を集めた県内最大級の農・海産物販売所やＳＬを見ながらくつろげるカフェ、レストランなどが入る施設を建設する。ＪＡ大井川の五和支店なども移転新築する。島田市は新東名高架下を利用し、約９００台分の無料駐車場を整備する。同市は日本高速道路保有・債務返済機構に占用許可の申請を出す。7月をめどに基本計画をまとめ、施設配置などの検討や測量を進める。実施設計は来年6月から入る。



にぎわい交流拠点の完成イメージ図。左の建物は大鉄の新駅



会見に臨んだ（右から）前田忍社長、池谷薫組合長、染谷絹代市長、久保田修事業創造部長＝25日午後、島田市役所

会見には、大鉄の前田忍社長をはじめ、染谷絹代市長、ＪＡ大井川の池谷薫組合長、中日本高速道路の久保田修・事業創造部長が出席した。前田社長は「新東名を降りる多くの人に乗車してもらえる機会を創出できればいい。世界に島田や川根の良さを発信する基地としてブランディングしていきたい」と期待を込めた。染谷市長は「大井川流域の夢をかなえる観光施設にしたい。スピード感を持って取り組む」と話し、池谷組合長は「この地域が胸を張り、新しい農業経営に取り組んでいけるような拠点にしたい」と説明した。

地元や奥大井 地域振興に期待

島田市やＪＡ大井川などが新東名高速道島田金谷ＩＣ周辺に「にぎわい交流拠点」を整備する方針を発表した25日、地元や奥大井地域の関係者は「ＩＣ周辺の活用は長年の願いだった」「さまざまな可能性が広がる」と期待を膨らませた。

金谷コミュニティ委員会の望月一彦会長(64)は「交通の要所として活用が期待されていた場所。交流人口が拡大し、活性化につながれば」と喜ぶ。

整備エリアには大井川流域の茶を集めた販売店舗も建設される予定。地元の茶商、一言暢昭さん(40)は「これを機会に消費者の購買力をかき立てるような商品、ＰＲ方法を考えたい」と話す。川根本町まちづくり観光協会の望月孝之会長(70)は「奥大井への波及効果が狙えるチャンス。ありがたい」と歓迎した。

平成２８年(2016年)２月６日（土曜日）　第２６５９７号　（日刊）

静岡新聞
2月6日
土曜日

にぎわい拠点金谷整備へ

島田市など4者 新東名IC周辺 物販・飲食店集約

大鉄は新駅検討

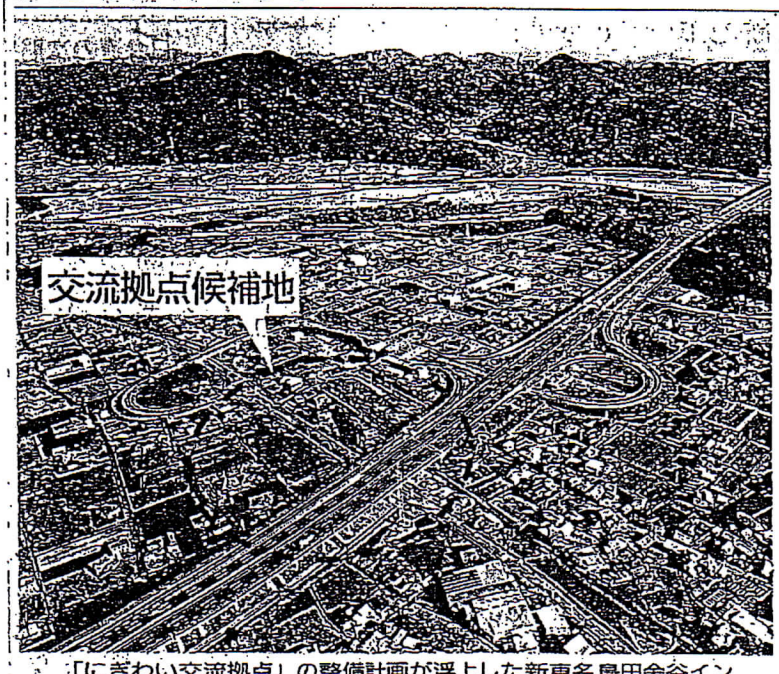
島田市とJA大井川、大井川鉄道（大鉄）、中日本高速道路の4者が連携し、新東名高速道島田金谷インターチエンジ（IC）周辺に、農・海産物販売所や飲食店を集約した「にぎわい交流拠点」を整備する方針を固めたことが5日、分かった。大鉄はこのエリアへの新駅建設を検討している。観光名所が多い大井川筋への玄関口にする構想で、島田市は新年度当初予算案に基本計画策定費など約2500万円を計上する。

関係者によると、整備エリアは県の「内陸フロンティア推進区域」に指定された区画の一部と国道473号を挟んだ隣接地。4者がそれぞれの強みを生かした整備に取り組む。

JA大井川は志太榛原地区では最大級となる大井川流域の特産品を集めた販売所や、SLを見ながら休憩できる緑茶カフェ、レストランのほか、大鉄のグッズショップなどが入る施設を建設する。

島田市は中日本高速から借りる予定の新東名高架下を利用し、約千台分の無料駐車場を整備する。車から大鉄に乗り換え、川根温泉（同市）や寸又峡（川根本町）などを巡る観光客の拠点にする考え。昨年3月に市が策定した「IC周辺まちづくり構想」で「地区の玄関ゾーン・稼ぐ拠点」と位置付けたエリアの整備が動きだす。

4者は昨年9月からにぎわい交流拠点の基本構想策定に向けた協議を進めてきた。今月中にも地元との調整に入る予定。



「にぎわい交流拠点」の整備計画が浮上した新東名島田金谷インターチェンジ周辺
＝2015年12月下旬（本社ヘリ「ジェリコ1号」から）